

(公益社団法人日本バス協会労務委員会労働問題研究会)

## 「『運転者不足問題』に対する今後の対応方策について」報告書(要約)

- 1 乗合バス(公営を含む。)をめぐる状況(平成20年度の状況)
  - ・輸送人員～約43億人で、平成元年度の65.7%。
  - ・バス台数～約5万9千台で、平成元年度の90.3%。
  - ・運転者数～約7万6千人で、平成元年度の82.1%。
  - ・民営乗合バス事業者の経営状況(平成21年度)～70%が赤字、都市以外では84.9%が赤字。
  - ・民営乗合バス運転者の給与～全産業男子を大きく下回る。
  - ・バス運転者(貸切専門業者を含む。)の総労働時間～全産業男子を大きく上回る。
- 2 バス運転者の募集採用・離職状況(アンケート調査による。公営事業者を除く。)
  - (1) 運転者の確保状況について、「現在不足している」と回答した事業者の占める割合
    - ・事業者規模別～大規模事業者74.4%、中規模事業者66.7%、小規模事業者38.9%
    - ・事業者所在都市規模別～大規模都市58.6%、中規模都市75.0%、小規模都市63.4%
  - (2) バス運転者の高齢化～20歳代、30歳代の割合が減少し、高齢化が進んでいる。
  - (3) 募集採用の状況
    - ア 募集採用の方法  
 通年募集による採用者の割合～平成22年度中83.9%、平成17年度中79.7%
    - イ 応募倍率
      - ① 平成22年度中のバス運転者の応募倍率(応募者数を採用者数で除した数値)は3.8倍で、17年度より1.1ポイント上昇している。～運転経験・技能等を基に採用
      - ② 応募倍率は、事業者規模、事業者所在都市規模により大きく異なる。
        - ・事業者規模別～大規模事業者4.3倍、中規模事業者2.6倍、小規模事業者1.7倍
        - ・事業者所在都市規模別～大規模都市4.9倍、中規模都市3.7倍、小規模都市1.9倍
    - ウ 募集採用活動の対象  
 募集採用の主な対象は、大型トラック運転者や他事業者のバス運転者と見られる。
      - ① 他の事業者でのバス運転経験者の全運転者に占める割合が「30%以上」の事業者が32.5%。
      - ② 退職した運転者の半数以上が他の事業者にバス運転者として再就職する事業者が39.5%。
  - (4) 離職の状況  
 平成18年度から22年度末までに採用した運転者のうち平成22年度末までに離職したものの割合は、31.8%。
    - ・事業者規模別～大規模事業者28.6%、中規模事業者35.1%、小規模事業者40.0%
    - ・事業者所在都市規模別～大規模都市32.7%、中規模都市28.6%、小規模都市29.6%
    - ・乗合・貸切別～乗合30.4%、貸切(専業)40.8%
- 3 効果的と考えられる対策
  - ①大型二種免許取得制度等～国による助成制度の創設等
  - ②女性運転者の活用～女性が働きやすい職場環境作り等
  - ③運転者の定着化対策～職場環境の整備、福利厚生、表彰・キャリアアップ制度の導入等
  - ④バス事業のより魅力化と、バス運転者という職業の重要性、魅力についての広報

※ 大規模事業者:200輛以上、中規模事業者:50～199輛、小規模事業者:50輛未満  
 大規模 都市:人口50万人以上、中規模都市:人口20万～50万人未満、小規模都市:人口20万人未満